

横暖ルーフ

工 法

新築

下 地

耐水合板

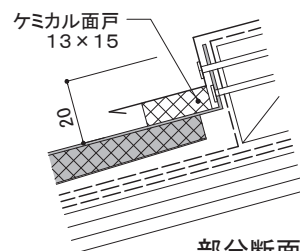
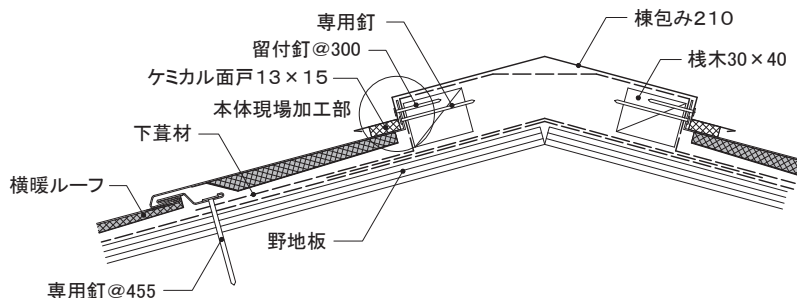
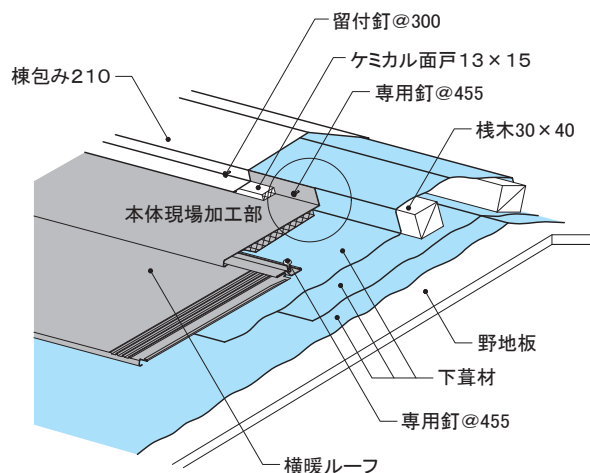
構造

木造

5) 大棟部

① 棟包み210

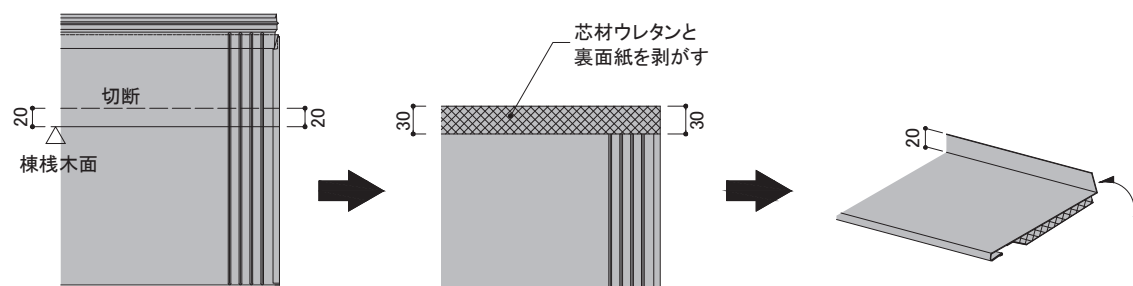
- 棟包み210の適用勾配と棧木位置はP226をご参照ください。
- 野地板の上に下葦材を張ります。
- 棟部に棧木30mm×40mmを外側2ヶ所取り付け、棧木を包むように下葦材を増し張りします。
- ※棟包み210に乗らないでください。
工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 棟部を図のように加工した横暖ルーフ本体を棧木に施工し、本体の図の位置にケミカル面戸13×15を貼り付け、棟包み210をかぶせます。棟包み210は、留付釘(ステンレスクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で棧木に留め付けます。
- けらば部は棟巴210Lを用いて納めます。



部分断面図

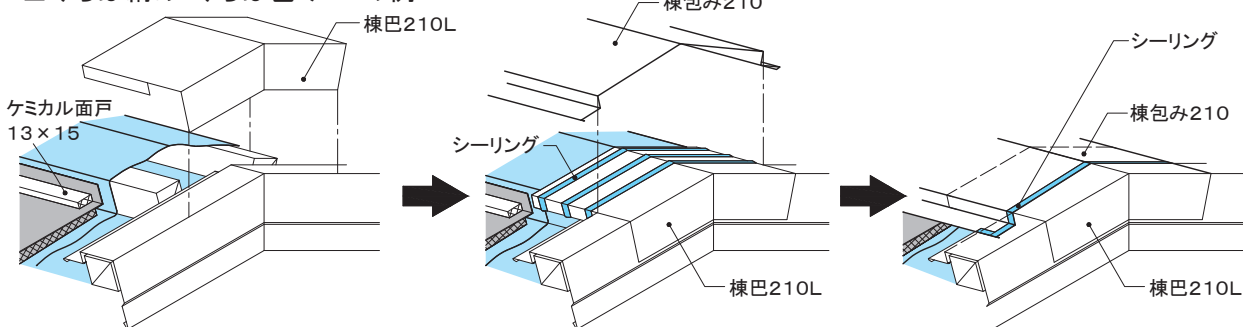
■施工ポイント・本体現場加工図

- 横暖ルーフ本体の大棟部分は図のように加工します。



- ① 棟栈木面から図の寸法で切断します。
- ② 端部から30mmの位置まで芯材のウレタンと裏面紙を剥がします。
- ③ 端部から20mmの位置を折り曲げて立ち上げます。

■けらば納め: けらば包み50の例



- ① 棟巴210Lは屋根勾配に合わせてけらば包み50と棧木の上にかぶせます。
- ② 重ね代部分にシーリングでビードを3本作り棟包み210をかぶせます。
- ③ 棟包み210、棟巴210L、けらば包み50が交わる部分に捨てシーリングを施工します。